

低用量ピル

・低用量ピルの種類

ピルは通常21日間服用し、7日間休薬するという28日間周期。その21日間の服用するホルモン量によって一相性と段階ピル（二相性・三相性）に分かれる。

- 1) 一相性：同じ量の卵胞ホルモン（エストロゲン：E）と黄体ホルモン（プロゲステロン：P）を21日間服用する。
- 2) 二相性：後半11日間はPの含有量の多いもの。含有量の違う2種類の錠剤を服用する。
- 3) 三相性：3段階に含有量の違う錠剤を服用する。生理的な月経周期のホルモンパターンに近づけたもの。

・ピルの服用開始時期

月経の第1日目からのみ始め、毎日ほぼ一定の時刻に決めて服用する。

月経の始まった次の日曜日から（月経が日曜日に始まった場合はその日から）のみ始めるというのみ方もあるが、この場合は服用を開始した1週間は他の避妊法を併用する。

休薬期間の7日間に軽い月経が4～5日続く。通常月経と比べて出血量も少なく、痛みも軽い。この状態が来ないときでも、次の周期は通常通り服用を続け、医師に相談する。2周期続けて月経が来なかった場合は、妊娠の可能性もあるため、服用を中止し直ちに医師の診察を受ける。服用中止した時は、他の避妊法を使用する。

・ピルをのみ忘れた時

万一のみ忘れた場合、のみ忘れが1日であれば、気づいた時点でのみ忘れた1錠を直ちに服用し、さらにその日の分も通常どおり服用する。その日は2錠服用することになる。

2日以上連続してのみ忘れた場合は服用を中止し、次の月経を待って新しいパッケージで再び服用を開始する。なお、この場合は妊娠する可能性が高くなるので、その周期は他の避妊法を使用する。

・ピルの避妊機序

いくつかの避妊機序があるが、一番大切な機序は排卵の抑制。ピルをのむと小腸で吸収され、血中にEとPの2種類のホルモンが入り、間脳・下垂体にある卵巣ホルモンのレセプターに働き、血中に十分な濃度の卵巣ホルモンがあるかのように、間脳・下垂体が判断する。よって間脳や下垂体から、ゴナドトロピン放出ホルモンや性腺刺激ホルモン（これらは、卵巣に働きEやPを分泌させるホルモン）の分泌が低下する。その結果、卵胞発育は抑制され、排卵も卵巣からのホルモン分泌も抑制される。

その他、ピルによって体内に吸収されるホルモンは正常の性周期に卵巣から分泌されるホルモンの量よりもはるかに少なく、また、月経周期の始めから卵胞ホルモンだけでなく黄体ホルモンも同時に存在するため、子宮内膜が厚くならず着床が抑制される。さらに、子宮の出口の粘液が粘土状の固い栓となって、精子の進入を抑制し、受精が抑制されるともいわれている。

承認された低用量ピル

	商品名	会社名	錠数	黄体ホルモン	mg/T	卵胞ホルモン	mg/T
一相性	マーベロン21	日本オガノン	21	D S G	0.15	E E	0.03
	マーベロン28						
	オーソM-21	ヤンセン協和	21	N E T	1.00	E E	0.035
二相性	エリオット21	明治製菓	10	N E T	0.50	E E	0.035
			11		1.00		0.035
三相性	トリキュラー21	日本シエリング	6	L N G	0.05	E E	0.03
	トリキュラー28		5		0.075		0.04
	リビアン21	山之内	10		0.125		0.03
	リビアン28						
	トライディオール21	日本ワイスダリー	6	L N G	0.05	E E	0.03
	トライディオール28		5		0.075		0.04
	アンジュ21	帝国臓器	10		0.125		0.03
	アンジュ28						
	シンフェーズT28	日本モサト	7	N E T	0.50	E E	0.035
	ノリニールT28	第一製薬	9		1.00		0.035
			5		0.50		0.035
オーソ777-21	ヤンセン協和	7	N E T	0.50	E E	0.035	
オーソ777-28		7		0.75		0.035	
		7		1.00		0.035	

* 商品名に「28」とあるものは、休薬期間にあたる7日間にホルモンを含有し

ないプラセボを引き続いて服用させるタイプのピル。

* 略) D S G : デソゲストレル(新有効成分)、N E T : ノルエチステロン、
L N G : レボノルゲストレル(新有効成分)、E E : エチニルエストラジオール

* 参考書籍 : 薬局47(6)南山堂、PIニュース速報99-9日本薬剤師会

* 発売後は、必ず添付文書でご確認下さい。